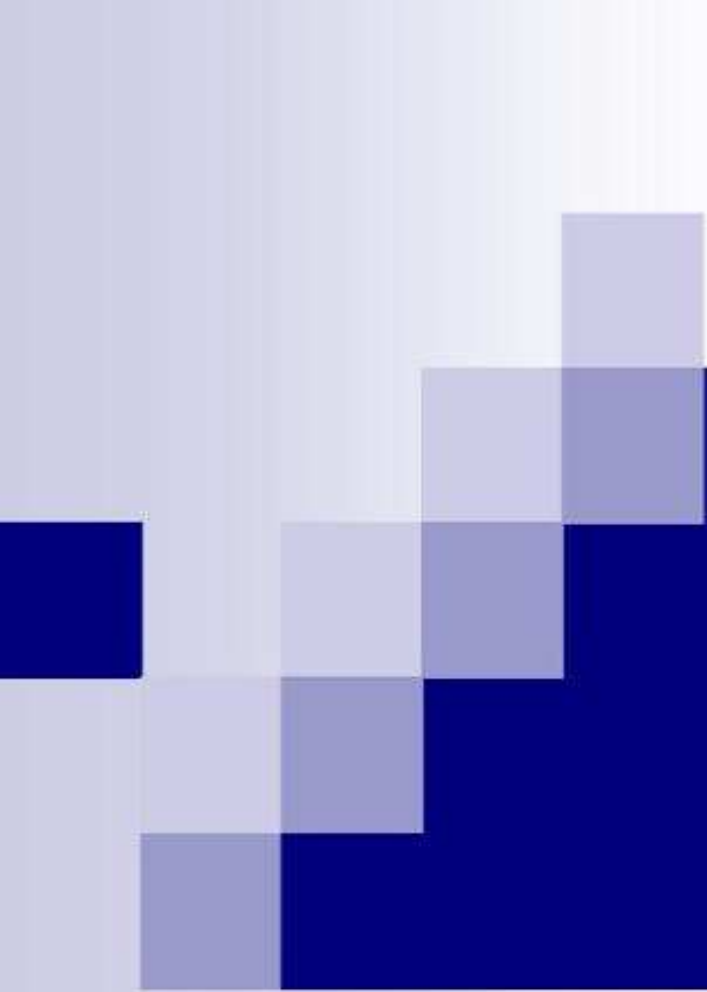




十字架という教え

シリーズ～弟子道～

2011/4/17

十字架に至る過程(捕縛まで)

- エルサレムへの歓喜の入城(日曜日)
 - 来るべきメシアとして迎えられた
- 神殿での教え・敵対者とのやりとり
- 最後の晚餐(木曜日の夜)
 - 弟子の足を洗う
 - 弟子たちへの最後の教え
- ゲツセマネでの祈り

十字架に至る過程(捕縛以後)

- 大祭司の家に連れて行かれる
 - ペトロの裏切り
- 最高法院が開かれ裁判が行われる
 - メシアか？神の子か？
- ピラトのもとへ連れて行かれる
 - 「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」
- ヘロデ(ガリラヤの領主)のもとへ送られる
 - 嘲り, 派手な着物を着せて送り返す

十字架に至る過程(十字架まで)

■ 再びピラトのもとへ

- 再び無罪を宣言する

- 「暴動と殺人のかどで投獄されていた」バラバを引き合いに出し、イエス様を解放しようとする

■ 人々はますます十字架につけるよう要求する

■ ピラトは群衆の声に負け、十字架刑を決める

- 激しいむち打ちを受け、嘲られる

■ イエス様は十字架を背負いゴルゴダの丘へ

裏切り,逃げ去った弟子たち

- イスカリオテ・ユダは銀30枚で師を売った
 - ユダはイエス様が捕らえられた後自殺した
- ペトロは師を知らないと言った3度
- ヨハネだけが十字架のもとへ行った
 - 母マリアを託された
- 他の弟子たちはみな逃げ去ってしまった
 - 「一緒に死のうではないか」と言ったトマスも

弟子たちの誤算

- イエス様は何度も受難の予告をしておられた
 - 弟子たちは「一緒に死ぬ覚悟がある」と言っていた
- まさか本当に起こるとは思っていなかった
 - 死人をさえ生き返らせるほどの力ある方
 - 罰せられるようなことは何一つしていなかった
 - 人々(群衆)はイエス様の味方だった
- 自分たちの夢が一瞬にして砕け散った
 - ローマを倒してくれるはずの方が、何の抵抗もせず十字架を背負われた

後で分かった十字架の意味

「もし、神のみこころなら、善を行なって苦しみを受けるのが、悪を行なって苦しみを受けるよりよいのです。キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。」

<1ペトロ3:17-18>

罪の身代わりとなって死なれた

- 「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです」
- イエス様の死は、「悪い人々」の罪を身代わりとなって裁かれるためだった
 - 祭司長たちやファリサイ派の妬み・群衆たちの無責任・弟子の裏切り＞私たちはどうだろうか？
 - 唯一の裁かれる必要のない方が、裁かれた

正しい苦しみ

- もし、神のみこころなら、善を行なって苦しみを受けるのが、悪を行なって苦しみを受けるよりよいのです。
- 善悪・苦楽の考え方がくつがえった
 - 苦しみとは悪に対する罰だと思っていたが、善を行って苦しむことがあることを知った
＜ユダヤ人の因果応報思想＞
 - いや、神の願いに適って善を行って苦しむことの方がすばらしいということを知った

イエス様の死によって

- 「肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした」
- 私たちの罪は赦され、肉体は死ぬけれども、霊は生かされ、永遠に神と共にある
 - この世の名誉名声、成功繁栄に何の価値もないこと、最も求めるべきものは何かを知った
 - イエス様が与えようとしたものと、弟子たちが求めていたものは違っていた

イエス様の死によって

- 「肉において死に渡り、霊において生かされて、私たちが救われた」

- 私たち **命よりも大切なものが** **あることを知った** **霊は生かされた**

- この世の価値もないこと、最も求めたものがなかった
- イエス様が与えようとしたものと、弟子たちが求めていたものは違っていた

十字架という(命がけの)教え

「もし、神のみこころなら、善を行なって苦しみを受けるのが、悪を行なって苦しみを受けるよりよいのです。キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。」

<1ペトロ3:17-18>